



シモマッチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 前岩手県立花巻北高等学校長

第3回

「純愛ラブソディ」

□ ドキッとした一言

以前ある講演で「純愛は年齢に依存しない」という言葉を聞き、ドキッしました。この講演後、ちょっとした集まりがあり、その話を持ち出したところ、ある若い先生から、最近、定年退職した先生がストーカーになっている例が多いとの話がされました。その理由は、これまで真面目一筋、禁欲、厳格に教育を行ってきた人間が、そこから解放されたとき、自分をコントロールし、上手に異性と付き合うことができないからなのだそうです。くわばら、くわばら。教員をリタイア後、ある仕事に就いた元同僚から、「年下のヤツに頭を下げるのが嫌で辞めた」と言われたことがあります。教員を退職した人にこのような方は結構います。そして、そのメンタリティーは、先ほど述べた「自分をコントロールし上手に異性と付き合うことができない」タイプと重なります。彼らの特性を、歯を食いしばりながら分析してみましよう。

①上から目線で一方的に「指導・注入」型

の授業を行ってきたことによって染みついた自分中心の世界観。命令されることが嫌い。根拠なく自分が一番と思っている。女性や年下を蔑視する。

②生徒が「先生、先生」とすり寄ってくる経験をしているので、生徒はいつも自分に注目しているという、大いなる勘違いをしている。実際に、テストや入試などが無くなると同時にその「権利」は失われているのに、そのことに気づかない。

③学校という、世の中の常識が通用しにくい閉じた世界にいるために培われた歪んだコミュニケーション。相手を立てる、人の話を傾聴するのではなく、自慢話や、一方的に自分の話ばかりする。

□ 年齢・性別で人は判断できない

なんだか書いていて気持ち悪くなってきたぞ。きつと自分にもそういう一面があるからですね。同年代の皆さん、気をつけましようね。女性に対しても、いざ自分より能力が高いことがわかったり、上司であったりすると、とたんに嫌な顔をする男性も

います。でも今や、特に学校現場など教育のフィールドは年功序列の世界ではないし、男性優位の仕事でもありません。最近では、社会構成型の学習スタイルが進展する中、授業において、コーチングやカウンセリングのスキルが必須なので、一方向的な上から目線の授業をしているようではもはや務まりません。また、生徒に安心感を与えるという点では、年配教師は、若い教師や女性にかなわない部分もあるかもしれません。そういう状況を機敏に察知し、若い人や女性、あるいは他業種の方に頭を下げて学ぶ姿勢がなければ、我々のセカンドキャリアはないと断言できます。

私は、期せずして、教育行政の仕事に2年ほど携わっていましたが、自分より年下の女性が上司でした。中学高校では、先輩面していたのに、年月を経て後輩が上司になってしまったという逆転現象は民間ではもっと普通にありますよね。その上司はとても有能で、人柄も素晴らしく、私はとても尊敬していましたし、教育行政という世界では私は初心者以外の何者でもなかったの

で、一生懸命教えを乞い、ご指導いただきました。一方、自分が取り組んでいる業務は、役職に依存するものではなく、自負もあり、堂々と提示してきたので、不遜な言い方かもしれませんが、きっとその上司も私の取り組みからいろいろなことを学んだと思います。

こと「学び」においては、それが役職とか職域などに依存して、一方向的な「命令」「注入」の形ではなく、フラットな関係の中で行われるべきです。その中でこそ、互いをリスペクトした、より高次なレベルでの「学びあい」が成立するはずで。それは授業でも同じです。

私は、ここ数年、授業づくりやカリキュラム編成、キャリア教育、などにおいて、様々な講師の方をお呼びしてきましたが、振り返ってみると、その多くは女性で、かつ私より若い方がほとんどでした。別に私はあえて女性を選んだのではなく、本質を語る人、生徒の視点でものを見る人、自らの生き様で語る人、などの基準で人選していったら、たまたま女性が多かったに過ぎ

ません。

今、私には様々なジャンルでの「師」が男女問わずおりますが、彼らのほとんどが自分より若く、有能です。そういう人とながりを持てることは幸せですね。そして、彼らが、私のような年配者の存在も大切に思ってくれ、真剣に接してくださるだけで、感謝しなければなりません。

教育とは、自分を追い抜く生徒を育てることである。年月を経て、教え子や、若い人たちに追い抜かれ、時に先生と生徒の立場が逆転すること。彼らを「我が師」として尊敬することは、むしろ、年をとることを得る特権かもしれません。

「純愛」の話から遠のいてしまいました。女性や、若い人に対して敬意を払い、感謝し尊敬すること。それが十分「純愛」。そこからさらに、過度な「妄想」にエスカレーターすると、倒錯してストーカーになってしまいかもしれないので要注意ですよ！でも、それを心に秘めつつ、社会に迷惑をかけずに生きる道も老後の「純愛」の形なのかもしれません。